

～翼を大きく広げて～ シマフクロウ生息地の森林の管理

北海道森林管理局

総務企画部経理課 収入係長 山下 誠護
網走南部森林管理署 首席森林官 枝澤 則行
シマフクロウ環境研究会 代表 竹中 健

1 課題を取り上げた背景

国の天然記念物であるシマフクロウは日本では北海道のみに生息している極めて希少性の高い大型鳥類です。開発等により数は減ったものの 30 年余りの保護増殖活動の結果、徐々に個体数は増加傾向にあります。知床地域のシマフクロウは調査研究により生息環境や生態が明らかとなるなか、生息地の広がりに応じて、適した生息環境を整える事が重要です。

そのため、営巣地周辺における人工造林地の間伐や林道の維持管理を行うた

めには研究者の知見を得ながら、シマフクロウの生息環境に配慮した森林管理の具体的な方法を確立する必要が出てきました。

2 取組の経過

シマフクロウの生息状況を把握するために、シマフクロウ研究者である竹中氏より、間伐を実行する箇所の周辺の営巣状況や餌場の利用状況、止まり木等について情報提供をもらいました。

間伐及び林道沿線木の処理方法について、研究者と現地打ち合わせ・踏査を行い、事業実行にあたって配慮すべき点や留意事項について協議を行



写真:シマフクロウの幼鳥



写真:人工林の施業方法を検討

いました。

生息環境の大きな変化を避けるため、一度に間伐するのではなく、見合せ区域を設けること、林道沿線木の処理については抜き伐り方式を取り入れることとなりました。

3 実行結果

生息環境の影響を最小限に抑えるため、間伐と林道沿線木の処理を同一に行わず、まずは林道沿線木の処理を平成24年度に行いました。

(1)林道沿線木の処理

- ① 林道沿線木の選木については、抜き伐り後に木漏れ日状態となるイメージで選木し、処理は営巣に影響が少ない時期の 10 月に実行しました。
- ② 処理にあたっては、チェンソーによる伐倒とし、止まり木となる枝に支障を与えないように重機の旋回に注意し作業しました。
- ③ 伐倒木は、作業と同時に搬出し、影響が生じないよう配慮しました。

(2)アカエゾマツ人工林の間伐調査

- ① 間伐調査及び間伐対象区域の設定については職員で実行し、営巣場所と餌場に隣接する箇所を見合せ区域としました。
- ② 調査結果、区域設定、選木の良否を研究者に事前の承認を得るため、検証してもらった結果、見合せ区域について一部手直しを行いました。

4 考 察

- ① 林道沿線木の抜き伐りにあたり、処理本数を少なくすることで、環境の変化に考慮した結果、今年度はこれまでと同様に林道沿線木の枝を止まり木として利用した形跡があることから、伐倒の影響は最小限に抑えられたと考えます。
- ② 人工林の間伐については、今後施業を行い、影響把握のためモニタリングを実施し、さらに見合せ区域の間伐の検討を行います。
- ③ シマフクロウの生息地は広がりつつあるなか、生息地周辺の森林の管理については、研究者の知見を活かして、適した生息環境を整えることが重要です。

事業実行の際、計画から実行まで研究者と共に検証を行い、共同して森林の管理を行っていく必要があります。